

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	語学演習 (阿部)	
科目基礎情報							
科目番号	0083		科目区分	一般 / 必修選択			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	創造工学科 (機械コース)		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	1			
教科書/教材	Before-After Practice for the TOEIC® Test						
担当教員	阿部 秀樹						
到達目標							
TOEIC®スコア300点以上を保持し、最終的に500点に到達することを目指す。TOEIC®に取り組むにあたり、学習上必要となる語彙、文法の増強を図る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1 英語の語彙・文法・表現を身につける。		英語の表現を身につけ、状況や話の流れに応じて内容を的確に把握することができる。	英語の語彙・文法・表現を身につけ、ある程度把握ことができる。		英語の語彙・文法・表現を身につける事が出来ない。		
評価項目2 解答への適切なアプローチを身につける。		TOEIC®形式の問題解答にあたり、根拠を明確にして、解答することができる。	TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題内容のある程度理解して解答することができる。		TOEIC®形式の問題解答にあたり、問題の内容を理解できず、解答することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。							
教育方法等							
概要	TOEIC®スコア300点以上を保持し、最終的に500点に到達することを目指します。遠隔による学習を基本とし、Forms演習 (各ユニットの「Before」) と各自の学習、まとめのForms演習 (各ユニットの「After」) を繰り返すことでそれぞれの目標点に到達できるような演習にしたいと思います。						
授業の進め方・方法	各ユニットをみると、「Before問題 1 0 問」、「Before問題に基づく解説と演習」そして「After問題 1 0 問」といった重要 3 部作構成になっています。Forms演習によって「Before問題 1 0 問」を第 1 回の報告をして、「Before問題に基づく解説と演習」の項目を各自の成績に基づいて学習して、「After問題 1 0 問」を第 2 回の報告として完結できるようにします。第 1 回の授業を対面で行い、詳しくはそこで説明します。						
注意点	Forms演習が各ユニット 2 度あるので、これをその週の出席とみたいと思います。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
オフィスアワー : 15:30-17:00、教員室							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス (対面) Pre-Test (P. 10-21)		Pre-testの演習によって、各自の目標スコアに応じた得点が得られる。		
		2週	Unit 1 Listening Section (以降遠隔)		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		3週	Unit 2 Reading Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		4週	Unit 3 Listening Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		5週	Unit 4 Reading Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		6週	Unit 5 Listening Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		7週	Unit 6 Reading Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		8週	Unit 7 Listening Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
	2ndQ	9週	Unit 8 Reading Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		10週	Unit 9 Listening Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		11週	Unit 10 Reading Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		
		12週	Unit 11 Listening Section		上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。		

		13週	Unit 12 Reading Section	上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。
		14週	Unit 13 Listening Section	上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。
		15週	Unit 14 Reading Section	上記に記した学習のサイクルを確立し、スコアアップにつながるよう各自の目標と戦略によって十分な到達度を目指す。
		16週	Post-test	これまでの学習を発揮できるようにする。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合

	試験	学習状況・態度	小テスト・課題	合計
総合評価割合	70	10	20	100
基礎的能力	70	10	20	100